

鶴田電機株式会社 環境報告書（2024 年度）



〈はじめに〉

鶴田電機株式会社では、2011 年に発生した東日本大震災に伴う福島県第一原子力発電所の事故により、CO₂削減や太陽光エネルギー（再生可能エネルギー）の利用推進の重要性を再認識しました。しかし、国内の原子力発電所の稼働が停止したことや、それによって火力発電所の利用が増えたこともあり、CO₂の排出量は増加し、2016 年には一人当たりの CO₂ 排出量が、OECD（経済協力開発機構）の 35 か国中 27 番目となりました。このことから、日本の CO₂ 排出量は、世界全体で見ても比較的多い方であり、SDGs の達成のためにも、今後は CO₂ 排出量を削減していかなければならないことが分かります。

そこで弊社では、太陽光発電用トランスの開発・提供によって、再生可能エネルギーの普及の後押しをし、持続可能な社会の実現に貢献することを目指してきました。また、社内においても、2019 年度から太陽光発電システムを導入し、自家消費を行うことで電気の使用量の削減や、効率の良い電気の利用を実施しています。

また、災害等の緊急時においても、電力の確保を可能なものとするため、弊社では、蓄電池に関する研究を加速させています。蓄電池と太陽光自家発電設備の併用によって、停電時の電力を賄えるシステムの運用や開発が可能となり、CO₂ 排出量の削減だけでなく、緊急時の避難所としても活用できるようになります。

日本では、2050 年までに CO₂ 排出量を実質ゼロにすることが、当面の目標とされていますが、弊社では、「2030 年までに CO₂ 排出量を 0 にする」という目標実現のために、今後も省エネや再生可能エネルギーの利用・推進を継続し、低炭素でクリーンな「持続可能な社会」実現のための活動に取り組んで参ります。



鶴田電機株式会社

〈目次〉

1. 太陽光発電用トランスの出荷状況
2. 電気使用量の削減／効率化
3. CO₂の排出量



鶴田電機株式会社

1. 太陽光発電用トランスの出荷状況推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計
出荷台数(台)	573	958	1,496	2,019	3,544	5,427	4,013	18,030

太陽光発電用トランスは、2018 年に出荷開始以来、出荷台数は累計 18,030 台となっております。2024 年度においては、太陽光発電用地等の不足等から出荷数量は鈍化したものの、引き続き再生可能エネルギーの推進に貢献できたものと考えております。

2. 電気使用量の削減／効率化

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2018年比較
電気使用量(kWh)	358,946	250,800	250,561	260,075	286,948	329,724	302,822	15.6%削減
電気使用効率(Ecut)	379.7	652.5	704.8	947.8	1138.1	953.1	771.4	391.7Ecut up

2024 年度においては、2018 年比 15.6%の電気使用量を削減することができました。また、電気使用効率（Ecut）においても、大幅にアップしております。引き続き、電気の効率的な使用を継続してまいります。

3. CO2 の排出量

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2018年比較
電気(t)	197.5	125.9	110.2	112.2	131.1	150.7	166.7	15.6%減少
ガソリン(t)	25.9	20.4	18.8	20.8	18.9	19.1	16.0	38.4%減少
軽油(t)	21.8	18.8	22.9	26.0	28.2	45.1	42.6	95.5%増加
灯油(t)	14.7	10.2	5.2	5.6	6.7	8.9	0.0	100%減少
LPG(t)	0.9	0.6	0.5	0.5	0.5	0.9	0.8	11.1%減少
計(t)	260.8	175.9	157.7	165.1	185.4	224.7	226.1	13.3%削減

2024 年度においては、2018 年度比 13.3%CO₂ を削減することができました。
引き続き CO₂ 削減に向けて取り組んでいきたいと考えております。



鶴田電機株式会社